

議案第 1 1 3 号

京丹後市名誉市民の選定について

次の者を京丹後市名誉市民として選定したいので、京丹後市名誉市民条例（平成 1 9 年京丹後市条例第 1 1 号）第 3 条の規定により、議会の議決を求める。

令和 6 年 1 0 月 1 7 日提出

京丹後市長 中 山 泰

出身地 京都府京丹後市峰山町

氏 名 谷垣 雄三（故人）

提案理由

京丹後市名誉市民の称号を贈り顕彰するため、京丹後市名誉市民条例第 3 条の規定に基づき、議会の議決に付する必要がある。

故・谷垣 雄三 氏 功績及び略歴

氏 名 谷垣 雄三（たにがき ゆうぞう）
 出身地 京丹後市峰山町
 逝去 平成29年（享年75歳）

1 功績 ～ ニジェールの野口英世と呼ばれる外科医（※） ～

遠く、アフリカ・ニジェールの地に延べ36年滞在し、貧しい地方で援助に頼らない自立した医療体制をつくるため、独自の医療構想を打ち出し、私財を投じて2度にわたる医療施設建設なども行いながら、厳しい医療環境の中で延べ1万2千回を超える手術を行うなど、「ニジェールの野口英世」と呼ぶ人さえいる（※）ような、ニジェールでの医療活動、医療体制の確立に生涯を捧げ多大な貢献をされた。

（※）シチズン・オブ・ザ・イヤ－賞評価より

2 略歴

西暦	和暦	出来事
1941年	昭和16年	峰山町で生まれる。 その後峰山小学校、峰山中学校、峰山高等学校を卒業。
1961年	昭和36年	信州大学医学部入学
1967年	昭和42年	信州大学医学部卒業
1979年	昭和54年	国内の病院で医師として勤務した後、IRSA（ウラン鉱試掘調査）の嘱託医としてニジェールに渡る。
1980年	昭和55年	ニジェールから帰国後数年間、フランス語を学びながら東京都内の病院に勤務。

1982年	昭和57年	再度ニジェール行きを希望し、JICA（国際協力機構）から医療専門家としてニジェールに派遣される。首都ニアメの国立病院の外科医として赴任。静子夫人も同行。
1992年	平成4年	「地方住民への外科医療を充実させるために地方に外科施設が必要」とニジェール政府へ提案。国土中央のテッサワに、自費で外科診療所「パイロットセンター」（試験的病院）を建設。援助に頼らない自立した医療活動に乗り出す。
2001年	平成13年	JICA派遣の任期が終了、自費で活動を継続。
		NPOアジア・アフリカにおける医学教育支援機構、横浜港北ロータリークラブ、出身地峰山町などの間に谷垣医師支援の輪が広がる。
2002年	平成14年	旧パイロットセンターを撤収。 再度、テッサワに自費で新パイロットセンターを建設。
2002年	平成14年	丹後地方在住の同級生ら20人で「谷垣雄三医師を支援する会」（以下「支援する会」）が発足される。以降、地元支援の取組が展開される。
2002年以降	平成14年以降	峰山小学校、長岡小学校、峰山中学校、峰山高校で、手術で使用するタオルを集めて送る支援が行われる。
2004年	平成16年	テッサワのパイロットセンターに、地元からの支援への感謝の印として「峰山門」を設置。
		支援する会が、アフリカと丹後を結ぶ「友情の記念碑」を峰山総合公園入口に建立。
2007年	平成19年	京丹後市に帰郷。支援する会をはじめ、支援協力した学校や市役所を訪問し、感謝の言葉を伝える。
		住民負担の地方外科を確立する目的を達成。これまで取り組んだ成果をまとめ、フランス語で提言書を作成、発表会をニアメで開く。
2017年	平成29年	ニジェール・テッサワにて永眠（享年満75歳）。
2019年	令和元年	パイロットセンターが「ユウゾウ・タニガキ県病院」に生まれ変わり、テッサワ地方の基幹的な機能を持つ総合病院となる。
2020年	令和2年	静子夫人と住んでいたテッサワの住居は「マダム・シズコ保健センター」に生まれ変わり、産院があり、母親が安心して出産し、母と子の命と健康を守る施設となる。

※出展：「外科医 谷垣雄三物語」（川本晴夫）

「Dr.タニ ひとつぶの麦」（おぎのしんさく）

新聞報道記事（京都新聞、読賣新聞、朝日新聞、産経新聞）

3 主な受賞歴

1994年（平成6年）	読売国際医療功労賞
2008年（平成20年）	シチズン・オブ・ザ・イヤー賞
2009年（平成21年）	読売国際協力賞
2010年（平成22年）	京都オムロン・ヒューマン賞
2010年（平成22年）	公益財団法人社会貢献賞

4 谷垣氏顕彰に関する最近の動き

2022年（令和4年）5月	外科医 谷垣雄三物語（川本晴夫）出版
2023年（令和5年）5月	谷垣雄三医師夫妻顕彰展（京丹後ロータリークラブ主催）開催
2024年（令和6年）7月	Dr. タニ ひとつぶの麦（おぎのしんさく）出版

※ 選考委員会における推挙：令和6年9月24日（火）

京丹後市名誉市民

旧町の名誉町民

故 錦織 米市 氏（受賞日：平成7年6月6日）

株式会社日進製作所の創始者として、又、丹後機械工業組合理事長、峰山商工会長、京都府商工会連合会理事、峰山納税協会長、丹後労働基準協会長、社会福祉法人「みねやま福祉会」後援会長等を歴任し、長年にわたり地域産業の振興と本町の発展に貢献された。

韓 昌祐 氏（受賞日：平成7年6月6日）

峰山町で起業し、西原産業株式会社（現在株式会社マルハンコーポレーション）代表取締役社長として、又、在日本韓国商工会議所連合会長、日本文部省認可・財団法人韓国文化研究振興財団理事長、日韓親善協会中央会理事、京都ユネスコ協会理事等として、長年にわたり地域産業の振興と日韓国際交流、さらには本町の発展に貢献された。

故 森岡 行直 氏（受賞日：平成8年5月18日）

昭和 42 年、府下最年少町長として初当選以来、7 期 28 年の永きにわたり、町民のための町政を心がけ、弥栄病院の丹後最大の総合病院化や、保健福祉センターふれあいの建設、農業集落排水の導入、森林公園スイス村や弥栄あしぎぬ温泉の建設、丹後あじわいの郷の誘致などを行い、弥栄町の発展に貢献された。

故 谷口 謙 氏（受賞日：平成16年3月18日）

大宮町口大野で開業医を営み、町内の小中学校の学校医として児童生徒の健康づくりを進めるとともに、国保運営協議会委員として町民の健康福祉の増進に勤めてこられた。

また、古典文学への造詣も深く、与謝蕪村について多くの研究を記すなど、文化面においても幅広く活躍された。

市制施行後の名誉市民

故 野村 克也 氏（受賞日：平成21年11月21日）

網野町出身で、峰山高等学校から南海ホークスへ入団。以来、現役時代には球界屈指の強打者として、数々の輝かしい成績、幾多の素晴らしい記録を残すとともに、現役引退後は監督・指導者として大変傑出した活躍をされる。また、平成21年4月には新たに監督通算1500勝の偉業も達成。選手として、また監督としても野球史に永く輝く功績を挙げられた。

また、野球界の発展のみならず、社会文化の振興・発展に大きく寄与された。

【議会基本条例第8条第1項関係】

政策等の形成過程の説明資料

令和 6 年 10 月 臨時会

議案の
件 名

議案第113号
京丹後市名誉市民の選定について

政策等
の区分

計画 ・ **事業** ・ 条例
その他 ()

<p>《政策等の概要》</p> <p>京丹後市名誉市民条例第3条の規定により、新たな名誉市民の選定を行うものである。</p>		<p>《市民参加の状況》</p> <p>有 ・ 無 (パブリックコメントを実施した場合は、その結果等を含む。)</p>												
		<p>《財源措置の状況》 (単年度事業でない場合は、全体事業の見込状況を記入) (単位：千円)</p>												
		総事業費	国庫支出金	府支出金	市債	その他	一般財源							
<p>《政策等の必要性》</p> <p>市制施行20周年の節目を迎えるにあたり、故・谷垣雄三氏を新たな名誉市民に選定し、郷土の誇りとしてその偉大な功績をたたえ、顕彰するものである。</p>		<p>《将来にわたる効果及び経費の状況》</p>												
<p>《提案に至るまでの経緯》</p> <p>R6.9.24 選考委員会において名誉市民の推挙決定</p>		<p>《総合計画等の整合》</p> <table border="1"> <tr> <td>総合計画 計画項目</td> <td>21</td> <td>市民参画・協働によるまちづくり</td> </tr> </table> <p>○その他の計画(該当する場合のみ)</p> <table border="1"> <tr> <td>計画名称</td> <td></td> </tr> <tr> <td>策定年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画期間</td> <td></td> </tr> </table>				総合計画 計画項目	21	市民参画・協働によるまちづくり	計画名称		策定年度		計画期間	
総合計画 計画項目	21	市民参画・協働によるまちづくり												
計画名称														
策定年度														
計画期間														
<p>《政策等の実施時期》</p> <p>令和6年11月3日の市制施行20周年記念式典において名誉市民の称号を贈り、顕彰を行う。</p>		担当部局	担当課	添付資料(有の場合は、その名称)										
		市長公室	秘書広報広聴課	有 ・無										